

いつもありがとうございます。

きしゅう会計の名倉です。
気が付けば2月。2014年
も1/12が終了した訳です。
ん、(…;) この表現ちょ
と気が早すぎですね。(笑)



さて、2月の初めには国を挙げての一大イベント、「節分の豆まき」があります。「節分」は「季節を分ける」つまり「季節の変わり目」という意味です。つまり季節の変わり目に行う行事です。

「あれ、日本には四季があるのだから変わり目は立春、立夏、立秋、立冬と4回あるのに2月3日だけ節分なん？」と思ってしまいますが、季節の順番は「春夏秋冬」つまり1年の始まりは春なので「立春」の前日2月3日が「節分」としてメジャーとなったようです。節分は新しい1年が始まる前日に「これから始まる、新しい1年が、不幸や災いが無い1年になりますように」との願いを込めて、この時期に行うのです。そこで次の疑問が「何故豆まき？」でしょう。子供に聞かれてもちゃんと答えられるように確認しておきましょう。

「豆まき」は京都に鬼がでて、みんなを困らせていた時に、神様からのお告げで、豆を鬼の目に投げて、退治したという昔話からきているようです。「鬼＝魔」→「魔(ま)を滅(め)つする」という言葉から、その年が無病息災で過ごせるようにと、豆を撒くようになったようです。そして、とどめの蘆薈が、「魔から目がでないように、豆は煎ったものじゃないといけないんだよ」です。

ここまで頭に入れば鬼に金棒！これで、試験に「節分について論ぜよ」の問題がでて、怖くないですね(笑) あ、ちなみに節分2月3日は旧暦でいう大晦日です。立春は翌日の4日であることにも注意が必要ですね。 φ(..)メモメモ

さて、豆まきでも鬼でもないのですが、皆さんあまりウェルカムでないのが税務調査ですね。

僕は仕事柄、どのようなことが問題になるか大体分かりますので、緊張することはないのですが、慣れていない納税者の方にとっては、まるで戦後GHQが来るかのようなインパクトがあるようです。その不安はどこからくるのか、それは税務調査が何かよく分からないことからくるのでしょうか。そこで久しぶりに「税務調査のチェックポイント」の小冊子を作りました。豆まきの豆ではありませんが、前もって理解すれば、不安を抑えるツールにはなると思います。また、違う観点からみるとこのチェックポイントは「事業のお金の流れを適正にするための内部統制構築に必要不可欠なもの」であるといえます。よもやまかわら版 2014年2月新春特別号全員プレゼントです(笑)。



さて、先日初めて同じ映画を2度続けて映画館でみました。タイトルは「永遠の0」。ちょうど1年前、このよもやまかわら版の発送を始めた頃に、きしゅう会計推薦図書で紹介した百田尚樹氏原作の映画です。第二次世界大戦中における「命」や「家族愛」がテーマ。誰もが望む、今の時代に必要なエッセンスがいっぱいなのでしょう。大ヒット上映中です。1回目はどうしても観たくて御坊のオークワでレイトショーを1人で観て、(1200円で観れます)で、2回目が結婚記念日(1月24日なんと21回目(@_@:))に嫁さんと二人で観



ました。(何が観たいと聞いたところゼロとのこと、この映画なら2回観ても全然OKと二つ返事しました。2回観ても眠くなりません)

「勇敢ではないけど優秀なパイロットの話」と言えるのですが、角度を変えて「家族」の側から見ると「勇敢なパイロットの話」ですよね。また観ていない人も多いだろうし、沢山の人が観てほしいし、「永遠のゼロ」についてはもうこれくらいにしておきますね。本当に是非ご覧ください。

この映画を観た後、昔読んだ本をもう一度読み返しました。それが「ホタル帰る～特攻隊員と母トメと娘礼子」。

赤羽礼子 石井宏
ホタル帰る



これは特攻隊の基地となった鹿児島県南九州市の知覧で戦時中、特攻隊員を支え続けた鳥浜トメさんとその娘礼子さんの実話です。トメさんは知覧飛行場近く

の「福屋食堂」の女将で、死を覚悟して飛立つ少年特攻隊員を心物両面で支え続けて「特攻の母」と呼ばれた人です。この本は沢山の特攻隊員のエピソードが載っていますが、まだ十代の幼さが残る語りと確かな死を前にしっかりと語りのアンバランスが、なんとも切なくて儚くて、、、。「永遠のゼロ」もそうですが、「ちゃんと生きなきゃ申し訳ない」って気持ちになります。先日号に書きましたが、ちょっとダレ気味な息子を連れて(もちろん嫁も、娘もいっしょに)知覧に行きたいなあ、春休みに鹿児島行きを計画中です。まだ、僕の頭の中だけの話ですが、、、(^_^)

トメさんの人物像が分かるエピソードをひとつ

します。石原慎太郎氏がまだ国会議員だった時に鳥浜トメさんは亡くなられたのですが、この時石原氏はトメさんを「国民栄誉賞」に推薦されたそうです。残念ながら当時の首相の宮沢氏に理解されず賞の授与にはならなかったそうですが、、、石原氏がトメさんをどのように思っていたか、彼の文章を引用します。

＜石原氏の文章＞

「生きた菩薩という言葉があるが、そんな人を私はこの世で一人だけ知っている。鳥浜トメという、今は多分八十に近い老婆である。



知る人ぞ知る人だが、太平洋戦争が無ければ、彼女はただの平凡な田舎の主婦として一生を終ったに違いない。しかし戦争は、彼女の家のある知覧の町に特攻の基地をもうけ、食堂をしていた彼女の家は特別任務を帯びて隔絶された多くの若者たちを迎え入れた。そして多感な若者たちは、優しい食堂の小母さんの内に離れて思う母親の姿を見出だして慕いよった。生さぬ相手に「お母さん」と呼ばれて慕われることでトメさんは、人に明かせぬ彼らの悩み悲しみあるいは恐れを聞き取りつづけた。知覧を舞台に短い人生を燃焼しつつ、あるいは稀有にも奇跡ともいえる生命を拾った若者たちのことをいろいろな人たちが記しているが、一行も記したことの無いトメさんの語る言葉の方が、はるかにその真実を伝え彼等への思いやりに満ちている」

石原さんって問題発言も多いですが、さすがベストセラー作家、いい話も綺麗にまとめますね。

僕がこの本を読んでもっともトメさんを偉大に思ったのが、終戦後に進駐軍が知覧にやってくるようになり、地元の警察署長から「治安維持の



ために米兵の接待係を引き受けてくれ」と依頼され、躊躇はあったが引き受けたことです。「鬼畜米英」で戦争をしてきて、特攻隊員を見送ってきたトメさんにとって、その役目はあまりに辛いこ

と。また世間からは「特攻隊員で儲けて敗戦後は米兵で儲ける気か」と裏切り者扱いされるのは目に見えて分かっている状況。それでも、戸惑いながらも接待係を引き受けてやっていくうちにトメさんは気づくんですね。この米兵たちも地球の裏側に家族を置いて、見知らぬ土地にやってきた、妻や子供、父や母の写真を懐かしく見つめる同じ人間であることに。そして今度は米兵の母親のような存在になっていくんです。憎むべきは戦争であり、人ではないってことなのでしょう。

知覧には特攻平和会館があり、大東亜戦争(戦後は太平洋戦争になる。)末期の沖縄戦において特攻という人類史上類のない作戦で、敵艦に体当たり攻撃をした攻撃隊員の遺品や関係資料を展示しているそうです。僕たちは、特攻隊員や各地の戦場で戦死された多くの犠牲によって今日の平和日本があることに感謝し命を大切に使うことを考え実行しなければなりませんね。

やっぱり一度家族でいってみようと思います。それともうひとつ行ってみたいところがあります。それが「薩摩おこじよ」→



新宿3丁目にある鹿児島島の郷土料理居酒屋です。

「ここは特攻の母鳥濱トメの味を代々受け継ぐお店です。この店でしか味わえない鹿児島島の郷土料理を専門とした、古き良き昭和の香りの漂う店内と、常備している芋焼酎の銘柄はなんと100種類以上！皆様きつとご満足いただけます。お



店では鳥濱トメの孫、赤羽潤がおもてなししています。」(薩摩おこじよホームページより)

←薩摩揚げ(?)がとても美味しそうです。食べログの評価 3.07 はちょっと気になりますが、トメさんの味を受け継ぐお孫さんのお店と聞けば「ホタル帰る」を読むと当然行きたくなります。ここには、出張で東京にいった時に1人で寄ってみようと思っています。ゼロを觀られた方、読まれた方、「ホタル帰る」も読んでみてくださいね。特攻隊員の心情が深く伝わってきます。そうそう、トメさんが登場する映画もあるようです。「ホタル」(2001年)、「俺は、君のためにこそ死ににいく」(2007年)、後者は石原氏が製作総指揮・脚本を手がけたようですが、ちょっとタイトルのセンスがなんともですね。どちらもいつか観てみようと思っています。

2月2日フルマラソン参加ですp(^_^)

人生初のフルマラソン in 口熊野です。このかわら版が皆様のお手元に届く頃には完走できたか否か結果が出ていると思いますが、、、昨年、1年で2000キロを走ろうと始めた早朝ジョギング。12月の半ばで腰を痛めてトレーニング中止。2000キロは達成してたと思いますが、その後現在まで殆んど身体を動かしていません。最近に

なってちょっと走りましたが、タイムトライアルで10キロ程走るとまた腰に痛みが、、、の状態です。でもゆっくりなら大丈夫だと、「5時間で完走」を目標に参加します。20キロやハーフは過去何度も走っていますが、42.195キロのフルマラソンは全く次元が違くと聞きます。何せ30キロを超えたあたりで、身体の中のエネルギーが切れるそうで、「大きな飴玉をもっていきや」とよく言われます。切れたエネルギー補給には飴玉がちょうどいいようです。駄菓子屋にいてその準備もしくちゅいけませんね(^_^;)。トレーニングを休んだ1カ月。ついた脂肪に落ちた筋肉。万全とはとても言えない状態ですが、去年1年のトレーニングが全て無くなっているわけではないはず、、、がんばりますp(^_^)q

さて、先日和会(異業種交流会)の新年会でジョギングの話になり、RunKeeper(スマホのアプリ)を紹介したところ、喜んで頂いたみたいでしたので、ここでもそのアプリの紹介をします。これは無料で使えるジョギングやウォーキングを管理するアプリです。GPSを利用して、走った経路、時間、距離等の記録を残してくれます。また「5分経過距離900メートル」など音声で途中経過のアナウンスもしてくれます。走り終わると下の画面と



なり、走った経路、1キロ毎のポイント、1キロ当たりの平均時間、消費カロリー等が表示され、facebookへも自動でアップと、至れり尽くせりです。正直このようなアプリの存在が

去年ジョギングが続いた大きな要因のひとつだと思います。更新する記録、強くなっていく身体を実感できるのは楽しいものです。また、早朝のジョギングはきっとホルモンの分泌が変わるのでしょうか。一日、前向き、アグレッシブな気持ちで過ごせます。逆にほぼ1カ月休んだこの身体はちょっと引っ込みがちな思考になりがちですが、やはり1年走ったこの身体。まだ少し貯金があるようで、フルマラソンをキャンセルしようという思考にはならないです。ただ、だからって身体がついていくかどうかはまた別の話ですが、、、(^_^;)。今は道具を使わず走っているランナーの方や、ジョギングを始めきっかけが欲しい方には、うってつけのアプリです。是非お試しください。

ただ、奥様に内緒の行動のあるあなた。こっそりこのアプリを起動されられないようにご注意ください。行先全部わかってしまいますから、、、GPSは正直者で、口が軽いですからね(笑)

講師をしている関大の試験終わりました

今年から税金の分野を担当した「会計学特殊講義」の定期試験が終了しました。簡単な穴埋め問題とちょっと難しい〇×問題。そして最後が論述問題「日本の国家予算や税制についての問題点をあげ、解決方法について自分の考えを述べよ」この問題、前もって伝えていたのですが、その際「先生、国家予算、自分なりに考えたのですが、抜本的に解決できる方法が思い浮かびません」とのこと。「そりゃそうだよ。実現可能な提案できたら、ノーベル経済学賞貰えるよ」と返してきました。抜本的に解決できなくても、小さなことでいいから、よくなる方法を書いてください。ねと、芽が出てほしいので煎ってない豆を撒いておきました。

それでは頑張ってください！